

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		愛の木放課後等デイサービス uki				公表日	令和8年3月2日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			今後も継続していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			活動や利用者の様子に応じて、バランスの良い職員の配置を今後も継続していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%			今後も必要に応じてすりやスロープの設置や安全性を考慮した上で代替としての用具の使用等を行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			今後も継続していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		状況に応じて個別対応できるスペースを確保している。	今後も継続していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		全体でのミーティング、ケースについてのミーティングを定期的実施している。	カンファレンスの時間を定期的に設け、その都度目標の確認や支援方法の確認、情報共有を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			年に一度実施し、保護者の方の要望等確認、業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			互いに話しやすい雰囲気づくりを配慮している。職員からの意見はその都度共有・検討を行い業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	66%	34%		社会福祉会に第三者評価を依頼中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%			研修の案内を職員に紹介したり希望の研修に参加できるよう業務の調整を行っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			定期的に確認する機会を設ける。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			半年に一度支援会議を実施し、評価及び個別支援計画の作成を行い、それに基づいて支援を実施している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		スタッフ間で随時ミーティングを行っている。	今後も継続していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		職員が主体的に共有して支援を行う様更に意識を高めていく	今後も継続していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		記録を作成し互いに共有している。	客観的な評価及び支援計画作成の為、今後も適宜標準化されたアセスメントツールを使用していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			今後も継続していく。定期的に確認し、適宜見直す機会を設ける。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			多職種が専門知識を活かしながら行っていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		季節ものや利用者の好みを取り入れ固定しない様になっている。	その時々利用者の興味や出来事を把握し関わりに変化をつける様考慮している。今後も継続していく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			今後も継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		ミーティングにて実施。	その日の取り組みや変更点など、毎日ミーティングを行い職員間の情報共有を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		ミーティングにて実施。	その日の支援について報告と連絡、また上手くいかなかったことがあれば相談もい次の支援に繋げている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			職員間で記録の共有を行っている。今後も継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			今後も継続していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%			利用者の興味関心や目的とするものに沿って計画的に取り入れている。今後も継続する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		活動の提案をする場合、複数提示する様にしている。	今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			個人に対して自己決定する機会を多く提供している他、子どもたちそれぞれの発達段階に応じた手段を工夫している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			今後も継続していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%			今後も継続していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%			今後も継続していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%			今後も継続していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%			参加可能な研修の場に積極的に参加し、情報共有もしている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	希望されない保護者もいる。	保護者の要望も受けながら今後も検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%			今後も継続していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			送迎時や連絡ノートを使用して行っている。今後も継続していく。些細なことも伝える様に信頼関係の構築にも繋げている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	83%	17%		家族に向けての研修会のお知らせなど情報提供を随時行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			今後も継続していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			今後も継続していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			今後も継続していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			今後も継続していく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	83%	17%	二年に一度保護者勉強会や夏祭りやコンサートなどのイベントを行っている。	保護者の希望も聞きながら継続していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			日頃から信頼関係を築くこと、相談や悩み等を伝えやすい関係性の構築に努めている。今後も継続していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			今後も継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			今後も継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			適宜視覚支援を用いるなど、意思疎通が円滑に進む様な方法の提案を今後も継続していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	50%	50%		今後も随時検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			今後も継続していくとともに訓練実施の様子を保護者にも伝えていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			定期的に様々な場面を想定した訓練を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			今後も継続していく。提供された情報は確実に職員間で周知する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			今後も継続していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	83%	17%		今後も継続していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリ等起きた場合の共有は即座に情報共有を行っている。	今後も継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			今後も継続していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			今後も継続していく。	